

備前市事務事業評価表

事務事業名	水質汚濁防止事業	コード	01-02-01-02
		担当課・係	環境課・保全係
		担当者	兼光裕一
事業実施期間	平成17年3月22日～	電話	103
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目(基本施策)	自然と共生するまちづくり	
	小項目(施策)	水質汚濁の防止	

事業について	
目的 (何のために)	休廃止鉱山から流出する強酸性水の処理及び鉱害防止工事を実施することにより金剛川・八塔寺川の水質汚濁と農作物への被害を防止する。定期的な水質検査によって市内各地の監視を行い、生活環境の保全と水質汚濁防止を図る。
対象 (誰・何を対象に)	市民
内容	市内3箇所の坑废水处理場（野谷・金谷・板屋）で坑废水の中和処理を行う。和意谷地区で鉱害防止工事を実施。主要河川・池・海域に水質測定地点を設け定期的な分析を行う。

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
坑废水处理水量	147,063 m <sup>3</sup>	228,742 m <sup>3</sup>	
環境水調査箇所	42 箇所	34 箇所	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	76,349	経費補助金等	51,109	直接事業費	89,997	経費補助金等	69,230
	人件費	15,890	委託費負担	784	人件費	14,741	委託費負担	374
	合計	92,239	一般財源等	40,346	合計	104,738	一般財源等	35,134

必要人員	1.90 人	2.23 人	
結果指標	結果指標名	坑废水处理水量	坑废水处理水量
	結果指標量	147,063	228,742
	単位	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
	対前年比	—	155.54%
	活動にかかるコスト	58,524,894 円	63,350,866 円
	単位当たりコスト	398 円	277 円
結果指標	結果指標名	環境水調査箇所	環境水調査箇所
	結果指標量	42	34
	単位	箇所	箇所
	対前年比	—	80.95%
	活動にかかるコスト	2,714,000 円	2,448,096 円
	単位当たりコスト	64,619 円	72,002 円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	市内の環境水（河川・池など）の水質監視体制の確立を図り、全体的な水質改善を実践できるようにする。		
成果指標名	環境基準超過回数	式又は説明	環境水水質検査で環境基準を超過した回数
	17年度	18年度	
成果指標量	60	51	
対前年比	—	85.00%	0.00%
到達目標値	45	到達目標年度	平成19年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成18年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	A
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 水質汚濁防止法	課題認識
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	坑废水处理は、半永久に続くものと見込まれるので常時安定した処理を行う必要がある。各坑废水处理場とも老朽化が進んできているので、上記の必要をみたすために計画的に修繕または改修を進めなければならない。鉱害防止工事についても、下流域での環境基準を満たせるように和意谷川流域の水質状況を確認しながら施行する必要がある。環境水の測定については、市内の状況を把握でき、十分な監視体制をとれるようにする必要がある。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	効率性評価<A~E>
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	課題認識
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	坑废水处理は雨量に左右され、老朽化による突発的修繕がおこなわれるのでコスト削減は困難である。環境水測定については、中期的にデータを見て必要とされる地点を毎年チェックして監視体制が十分とれることを確保しつつ最低限の箇所にとどめるようにする。
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	有効性評価<A~E>
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	坑废水处理については排水目標水質達成率100%は実行できている。鉱害防止工事については、事業途中なので下流域で目標達成できていない。環境水は市内の状況が把握できたが、この結果を水質保全にどう生かすかが課題である。
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	市民参画度	B

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明	坑废水处理と鉱害防止工事は、前年と同様に実施している。環境水調査測定業務については、測定箇所及び測定項目の見直しを行い、委託料の軽減を図った。
目標値	結果指標量	187,900	結果指標量	30
	成果指標量	45		

総合評価	坑废水处理については目標水質100%を達成しており、鉱害苦情や被害の報告もなかったが、各坑废水处理場の老朽化が進んでいるので今後コストアップが懸念される。鉱害防止工事は事業途中なので引き続き事業を継続していく。全体的に環境基準を超過する回数が減った点については、水質改善がなされていると評価できる。	評価区分<A~E>	B
------	---	-----------	---

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	野谷坑废水处理場の自動化	H20～	当面の安定した水処理が可能
効率性	環境水測定地点の選定	H20～	水質検査にかかる費用のコストダウン